

標茶町議会第3回定例会

一般質問通告一覧

平成30年9月6日

No. 1

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
1番	櫻井一隆	広報しべちゃ紙面にある「まちづくりポスト」についての回答は誠実に対応すべきでないか	<p>広報しべちゃの「まちづくりポスト」には一般町民の意見が寄せられている。この紙面は町の考えを町民が直接聞くことができる大切な紙面と思う。しかし、広報しべちゃ8月号に掲載されている観光開発公社への回答は誠不誠実なものであると感ずるので以下について質問をする。</p> <p>(1) 「完全民営化への早急な議論を」との問に答えがないのはなぜか。</p> <p>(2) 「経営改善計画が達成されるよう同社を支援してまいります。」と結んであるが、町よりの支援とは、どのようなものなのか具体的に示すべきではないか。</p> <p>以上、2点について問う。</p>	町長	
4番	深見迪	1. サルボ・サルルン展望台及び道路と周辺環境の早期整備を	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年9月に同趣旨の質問を行った。町長の答弁は、釧路総合振興局は、本町に対し緊急度が高いと認識しているとして、道と共同で現地確認を行い出来る限り早急に対応するとの答弁であったが、その進捗状況を伺いたい。 ・ また、現地調査については地元の人と一緒に進むと聞いているが、そのように行ったのか伺いたい。 ・ 1年前の担当課の答弁では、振興局としては、新年度（平成30年度）事業化に向けた検討がされるということであったが、それはどのようなになっているか伺いたい。 ・ サルボ・サルルン展望台には連日多くの観光客が、車、自転車あるいは徒歩で訪れている。新設された博物館とともに貴重な観光資源であり、標茶町発展の下支えとなっていると考えるが町長の所見を伺う。 	町長	
		2. 言語聴覚士の確保と言語障害特別支援学級・言語障害通級指導教室教師のスキルアップを	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語聴覚士が全道的に不足し、標茶町も確保できていないが、その確保のため様々な努力を要望するがどうか。 ・ 国の平成29年度の予算では、平成29年度から38年度までの10年間で通級指導の充実として1対13の割合で加配を措置する計画を出したが、本町の場合この計画の具体化はどのようなになっているか。 	教育長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を 求める 者	答弁内容
			<ul style="list-style-type: none"> 当面言語聴覚士の確保が困難な場合、相当の言語指導教師のスキルアップが必要と考える。教育長の所見を伺う。また、言語指導が必要である児童生徒の人数は今後も含めてどのくらいいるか伺う 		
		3. 保育士の処遇改善と臨時保育士の賃金大幅改善を	<ul style="list-style-type: none"> 保育士の処遇改善は平成 29 年度からすべての保育士等の賃金に対し、2%（月額 6,000 円程度）の加算率の積み増しが行われ、同時に人事院勧告に準じて+1.1%の改定が行われているが、本町もそのとおり実施されているか。併せて、臨時保育士の賃金についても配慮がなされたか伺う。 保育士等キャリアアップ研修の実施が9月以降行われ、この研修の受講も処遇改善等の加算の算定要件となると聞いているが、本町では受講希望者はいるか。また、この研修は、リーダー的職員の育成を目的としているが、臨時保育士にもその機会が与えられるべきと考えるがどうか。 	町長	
8番	渡邊定之	1. 天候不順による粗飼料の確保、栄養価などの心配があるが、本町ではどう把握しどのように対策を考えているか	<ul style="list-style-type: none"> 天候不順による粗飼料の不足や質の実態を伺いたい。又粗飼料の値段が高騰しているが、例年と比較し、酪農家の経営をどの程度圧迫し今後予想される困難について伺う。 農協の取り組みも含めて、何らかの救済の手立てが求められると思うが、国、道に対する支援を求める考えはあるか。また、本町独自の取り組みも考えるべきと思うが所見を伺う。 	町長	
		2. 輸入牛による伝染病を防ぐため万全の体制を	<ul style="list-style-type: none"> 乳牛不足から輸入牛が増えている。輸入牛の検疫で細菌性の慢性伝染病ヨーネ病と診断される牛があり、その頭数が年々増えていると聞いているが、本町における実態はどうか。 又、このことから国は、平成 18 年 11 月、「ヨーネ病防疫対策要領」を策定、平成 25 年度 4 月 1 日付けで牛のヨーネ病防疫対策要領の全部を改正しているが、その後の国の対策を伺いたい。 本町ではヨーネ病を含む輸入牛による伝染病対策にどのように体制をとっているか伺いたい 	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を 求める 者	答弁内容
6番	松下哲也	就学援助を縮小せず 支給対象の維持を	<p>経済的に苦しい小中学生のいる世帯に自治体が学用品費や給食費を支給する「就学援助」については本町でも実施されている。就学援助は生活保護を受給する「要保護者」と市町村が生活保護世帯に近い経済状況と認定した「準要保護者」が主な対象となっている。</p> <p>要保護者への援助は国の制度のもとに実施されているが準要保護者は自治体単独の負担で行っていてその認定基準は自治体が年度ごとに定め世帯収入が生活保護基準の1.2～1.3倍までを対象とする自治体が多い。政府は生活保護基準を今年の10月から3年間で最大5%引き下げることを選んだ。その結果、生活保護基準引き下げ前の対象者をそのまま準要保護者と認定するか認定基準を引き上げるかしない限り援助対象は自動的に縮小されてしまう。教育の格差につながりかねず子育てにやさしい町を目指すためにも就学援助を縮小せずに支給対象を維持し続けるべきと考えるが教育長の所見を伺う。</p>	教育長	